

議長（竹島ユリ子君） 3番 山崎知信君。

3番（山崎知信君） おはようございます。山崎でございます。

私は2点ほど質問したいと思いますので、よろしくをお願いします。

第1点目は、第4次総合計画の設定に向けた基本構想についてでございます。

村はこれから、人口減少と少子高齢化が進み、未来を創造する分岐点に在ることを踏まえ、地域のきずなが深まる魅力ある地域づくりを進めてほしいと思います。

さて、住民が望むもの、それは最少の負担で福祉をはじめとする行政サービスの向上です。その結果、子や孫の世代に過度な負担も残してほしくないと考えます。村は、10年間の総合計画で責任ある村政を進め、10年後、20年後も住みたくなくなるようなむらづくりについて基本構想を仕上げてもらいたいと思います。今、その構想は、策定審議会があると思いますが、どこまで進んでいるのか副村長に伺います。

次に、2点目でございます。小中学校のいじめについての相談窓口についてでございます。

群馬の小学校6年生の自殺をめぐり、文部科学省はいじめの実態を把握するため、すべての学校で定期的なアンケートの実施を求めています。さて、この小学生の子は、いじめにより友達ができなくて孤立し、ひとりでお昼の給食を食べていると聞きました。また、中学生になったら大阪の学校に転入することも決まっていたそうです。

富山大学の先生が、うちの学生にもよく似た子がいると言っていました。それは、昼食時に、例えば4卓テーブルに座る場所があっても、1人では座らないそうでございます。それは友達がいらないと思われるのが嫌で、座らないで立って食べているそうです。

いじめはどの学校でも起こり得ることをすべての教師が共通に認識し、問題に対して学校として組織的な対応ができるようにすることが望ましいと思います。また、いじめの対策委員会の設置、担任だけに抱え込ませない、複数の教師で子どもを見ること、いじめがあれば報告することなどが望ましいと思います。

子どもの心の問題に真剣に取り組まないでいると、大人になってからの心の健康の深刻な問題を生じることになりかねません。我が村は全教職員が一致協力して取り組んでいると思いますが、子どもたちのいじめについてしっかりと把握しているのか、また相談窓口はあるのでしょうか、教育長に伺います。

以上でございます。よろしくをお願いします。

議長（竹島ユリ子君） 副村長 古越邦男君。

副村長（古越邦男君） 山崎議員のご質問にお答えいたします。

地方行政を取り巻く状況は、急速な少子高齢化や人口減少社会の到来、国際化及び高度情報化の進展、地球規模での温暖化の進行により大きく変化し、行政ニーズも多様化、高度化してまいっております。

一方、国や地方は、グローバル化した経済情勢の変化の直撃を受けまして、財政の危機的な状況が続いております。本村の行財政を取り巻く状況は、ますます厳しいものとなってきております。

このような状況を踏まえた上で、中長期的な視点に基づき本村の将来像を明らかにするとともに、魅力ある村の将来の実現に行政と住民が課題や目標を共有するための指針となるのが第4次舟橋村総合計画であると思っております。

ご承知のとおり、舟橋村は平成20年2月、富山大学と地域づくりの連携協定を結びまして、村民憲章の制定や村民の主体的活動を支援するまちづくり協議会の設立等、住民とともに協働型社会づくりの実現を目指した取り組みを通しまして多くの実績を積み上げてまいりました。今回の第4次舟橋村総合計画の策定におきましても、これまで同様大学のご支援を得ながら、協働型まちづくりを根底にした計画づくりを進めてまいっております。

それでは、具体的な取り組み状況につきまして多少説明させていただきたいと思っております

村を取り巻く状況や課題を明らかにいたしまして、多方面から検討、分析を行い、解決策や将来像を確立するための住民アンケート調査はもちろんでございますが、総合計画審議委員会にワーキング部会を設置しております。住民からの公募委員6名と村職員4名の合計10名で「安心部会」「活力部会」の2部会を構成し、討議をいただいております。

村の将来を担うのは限りない可能性を秘めた若い方々でございます。公募委員、村職員ともフレッシュな皆さんで、村の魅力や問題点を洗い出し、将来の村の発展に結びつく課題等を提案していただきました。その内容を去る11月25日に開催されました第2回総合計画審議会に報告しました結果、村の将来像及び基本理念については委員の方々のご了承を得たところでございます。

基本構想の素案につきましては、委員から幾つかご意見があり、また富山大学小柳津教授からもアドバイスがございましたので、さらに検討を加えることとしております。

今後の取り組みスケジュールといたしましては、ワーキング部会をもう1、2回開催いたしまして、来年2月には審議会答申として村長へ提出され、3月議会において基本構想の議決をいただきたいというふうに考えております。

以上、策定状況の概略を述べまして、答弁とさせていただきます。

議長（竹島ヨリ子君） 山崎知信君。

3番（山崎知信君） 再質問ではないですけれども、副村長、参考までに、65歳以上の犯罪が近年増加しつつあります。その要因として、ひとり暮らしの孤独と貧困な生活問題などがあり、その犯罪者の7割がまた同じようなことを繰り返しております。我が村は犯罪、貧困生活が起きないようにむらづくりにしっかりと仕上げたいと思っています。

また、竹内地内の村の土地利用について提案いたします。

駅の壁画にもありますが、百姓一揆は竹内の無量寺に集まったのが始まりだと聞いております。村の土地を駐車場として利用し、参道を整備し、無量寺の寺を日本一小さな村の観光にし、第4次総合計画に取り入れたらどうでしょうか、村長に伺います。

以上でございます。

議長（竹島ヨリ子君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） お答えいたします。

今、山崎議員から提案のありました竹内地区の話でございますけれども、これは平成元年だったと思いますが、魅力あるまちづくり事業といいまして、県に採択いただきまして、県単の補助金として図書館に4,000万ぐらいいただいております。そしてまた村債といいますが、借金もできるということでございまして、あそこの一帯を計画したものが現在もあります。その中に無量寺の参道を含めてグレードアップするという構想も入っていたわけでございます。

そういった経過があるということをもっと前提にいたしまして、先ほどの明和議員の質問にもお答えしたとおり、今の社会資本整備の中に地域に合った活性化できるような事業であれば、どんどん採択してくれるような要素もございまして、そういった中で十分検討してまいりたいということをお願いいたします。

議長（竹島ヨリ子君） 教育長 塩原 勝君。

教育長（塩原 勝君） 山崎議員の質問にお答えいたします。

ことしの年の瀬の流行語大賞は「ゲゲゲの」で、NHKの連ドラから来ているということは、どちらかというとも穏やかな年だったのかというふうに思います。しかしながら、先ほどもありましたように、いじめが絡む連続の自殺などもありまして、そういった面から見ると、大変な年でもありました。

ちょうど4年前になりますか、この年は、いじめ、不登校、自殺、校内暴力、学級崩壊、非行、犯罪といったようなことに合わせて、校舎内での爆破事件、友人刺殺事件などがありました。そして、マスコミ等の過剰な報道と申しますか、そういったことから連鎖反響的にいじめの予告、自殺の予告、そして殺人の予告等がありまして、この年に議会でもいじめについての質問がありまして、大変長い答弁をしたことを覚えております。

そしてまた、今の議長さんが「人間の幸せの原点」ということで質問されまして、私なりの考えをそのとき発表しております。山本有三氏の『路傍の石』を例にとって話したり、教育指導として自らを考える、みんなで幸せを実現していく、自らの生き方を探るとともに、健康でたくましく、心豊かで幸せな人生を送る力を身につけて、みんなで協調し合って生きていくことが、人間の幸せの原点ではないかということでもとめさせていただいております。

そしてその年には、皇太子様が愛子様のために、アメリカのドロシー・ロー・ノルトさんの言われた詩をもとにいろいろな話を新聞で発表された年でもあります。子どもたちは、批判ばかりされていると非難することを覚えるし、殴られて大きくなると力に頼る人間になるということも書かれまして、これらが非常に話題になった年でもありました。

そういったことで、いじめについては4年前の答弁とダブるところもありますので、今回はできるだけ絞ってお答えしたいと思います。

いじめの定義というのは、自分より弱い者を一方的に攻撃するということであり、それは身体的、心理的、近ごろはインターネット等でもありますので、心理的な攻撃を継続的に行うということ、そして加害者の立場で考えるのではない、すなわち加害者は、指導してやったんだとか激励してやったんだということで、いろんな形で被害者と言われる人に攻撃しているわけですが、そういったことから表面的、形式的に判断されるべきでないし、何と言っても、いじめられる側に立って、そのいじめられる側がどう感じたかによって、いじめであるかそうでないかということ判断すべきであるというふう

に考えるわけであります。

それで、私あるいは教育委員会としての考えとしては、いじめの発生しにくい環境づくりをするということを一番に考えております。これは指導者、先生方に対することでもありますし、子どもたちに対することについても言えることであります。

そして2番目には、早期発見と早期対応ということで、また幾つかのことを考えております。3番目に家庭や地域社会との連携、4番目に教育委員会として果たすべき任務といったこと、5番目に組織体制と教育相談、6番目には家庭あるいは地域との連携ということで考えているわけであります。

ことは自殺等が続きまして、いつものように文科省、そして県教委からもいろいろな取り組み、対応の仕方等の指示が来ております。11月9日に文科省が出しておりますし、その後、県教委からも指示を受けております。そして、どこの小中学校もやったと思われませんが、特別にいろんな調査、指導、対応をとっております。もちろんそれ以外に定期的に指示も来ていますし、年度当初から十分対応してきているつもりではありますが、小さい教育委員会でありますので、なかなか独自に考えてやっていくということとはできません。ですから、一つのマニュアルごとに資料をもらったり、指示があったりしますので、それを参考にして、この村にふさわしいもの、この村でやれるものを取捨選択して実施しているところであります。

舟橋小学校では、1番には、毎朝の登校時に先生方が玄関に立って子どもたちを観察しております。2番目には、連絡帳の利用を行っております。そして3番目、木曜日の終礼時に全教職員で情報交換をやってきております。4番目に、毎学期調査を必ず実施して、学期に一度はクラスの全児童と面談をする。5番目には、校内での生徒指導委員会を行う。6番目には、週1回ではありますが、教育事務所からスクールカウンセラーを派遣してもらって、先生方との話し合い、それと同時に問題を持つ子どもたちに対してのカウンセリングを実施しております。それから7番目には、もし問題を感じたときには、村の社会福祉協議会との情報交換のときにも話を出しています。そして8番目には、PTAの会合や行事の機会を利用しながら、アンテナを高く張っているような情報の収集に努めているというようなことで、いじめはかつてはあったら恥ずかしいことだということで、まず隠そうというようなことでありましたが、近ごろは、いじめはどこにでも起こるんだ。ですから早いうちに見つけ出して、的確で迅速な対応をしていくということが逆に評価される時代になってきております。そういったことで、年間を通して

こういったことをやっております。

中学校では3つにまとめております。1番目には、人権意識の向上、やはりいじめを生ませない学校、風土の構築ということになると思います。2番目には、早期発見ということで、週1回のスクールカウンセラーの利用等も中に入っております。そして、即時対応ということで、担任あるいは生徒指導主事が窓口となり、いろんな形で即時対応を心がけております。そういったことで、東部教育事務所内にもいじめに対する相談の窓口がありますし、村においても担任、生徒指導主事、あるいはまたカウンセラーを中心に窓口として対応しております。

そういったことで、いじめに近いものは間違いなくあります。しかし、3、4年前に中学校の学習発表会でいじめについて劇で取り上げました。非常に立派なものでありました。そしてまたつい最近では、命について劇で取り上げております。なかなかいいことを主題にしてやってくれているし、内容もすばらしいものであります。どこで発表しても恥ずかしくないものであったなと自己満足しているところでもあります。

回答になったかどうかわかりませんが、独自ですばらしいものを行っているという自慢はできませんが、いろんなことを参考にやらせてもらっているということで答弁に答えさせていただきます。

議長（竹島ヨリ子君） 山崎知信君。

3番（山崎知信君） ただいまの立派な答弁、本当にありがとうございました。

私が聞いているのは、いじめが何件あって、どのような対処をなされたかということでございまして、その点、もう一度お願いしたいと思います。何か聞くところによると、何年前にクラスごと崩壊するようなこともあったとも聞いていますので、この問題に対してお尋ねしてみたいと思いましたので、一般質問にぶつけてみました。よろしくお願ひします。

議長（竹島ヨリ子君） 教育長 塩原 勝君。

教育長（塩原 勝君） 実際に大きなことには至っていないと思いますが、インターネットでのいじめもありましたし、けんかのような一時的な暴力もありました。しかし、具体的に大きないじめと思われるものが幾つあったかということは、現在準備していませんし、また調べてお話ししたいと思いますので、よろしくお願ひします。